



2016年3月期 第2四半期 決算説明資料

(注) 見直しに関する注意事項

本説明会・資料における当社グループの今後の計画・見直し・戦略等、将来に関する記載は、当社が現時点において把握可能な情報をもとに判断したものであり、これらは様々なリスクや不確実性が内在しております。

従って、経営環境の変化、未知のリスクの顕在化、およびその他様々な要因により、実際の業績等の結果は大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

なお、表示の数値は、億円未満を四捨五入しておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

2015年11月12日
兼松株式会社

<http://www.kanematsu.co.jp/>

2016年3月期 第2四半期決算概要

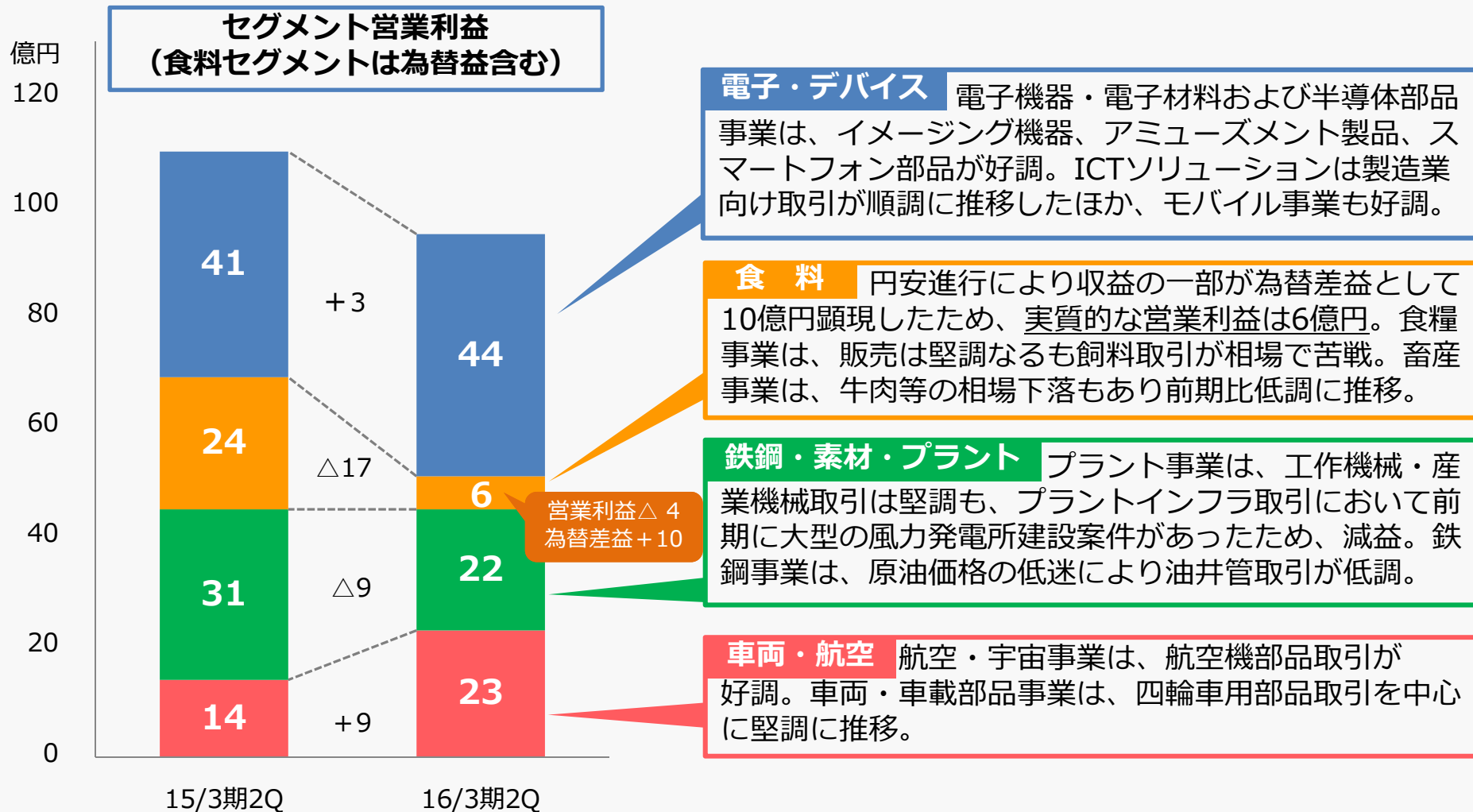
1 - 1. 2016年3月期2Qハイライト (P/L)

- ✓ 売上、売上総利益は堅調も、営業利益以下は苦戦
- ✓ 撤退済みの繊維事業において特損を計上し、当期利益減益

(単位:億円)	15/3月期 2Q実績	16/3月期 2Q実績	前期対比
売上高	5,344	5,403	+ 59
売上総利益	440	446	+ 6
営業利益	111	85	△ 26
経常利益	106	92	△ 14
税前利益	105	77	△ 28
当期利益	61	44	△ 17

1 - 2. 2016年3月期2Qハイライト (セグメント利益)

✓ 食料、鉄鋼・素材・プラントセグメント低調により減益



1 - 3. 2016年3月期2Qハイライト (B/S)

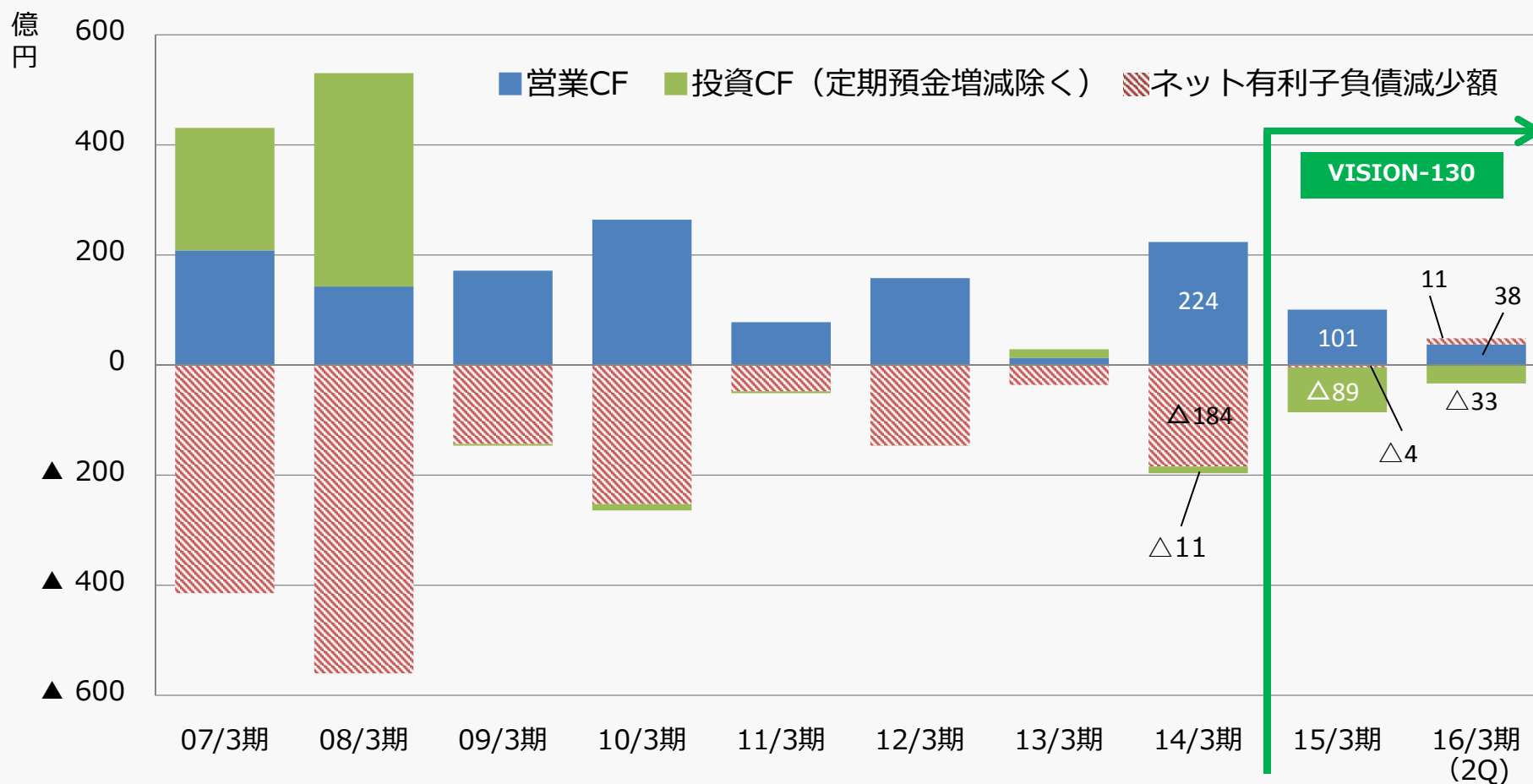
- ✓ 収益の積上げにより、自己資本は順調に増加
- ✓ 自己資本比率は21%超へ
- ✓ 自己資本の増加により、ネットD E Rは0.7倍まで良化

(単位:億円)	15/3月末 実績	15/9月末 実績	(単位:億円)	15/3月末 実績	15/9月末 実績
総資産	4,590	4,479	グロス有利子負債	1,361	1,332
純資産	1,187	1,238	ネット有利子負債	676	688
自己資本	901	944	ネットD E R	0.8倍	0.7倍
1株あたり純資産	214.1円	224.7円			
自己資本比率	19.6%	21.1%			

※ 自己資本 = 純資産 - 非支配株主持分、 自己資本比率 = 自己資本 ÷ 総資産、
ネットD E R = ネット有利子負債 ÷ 自己資本

1 - 4. 2016年3月期2Qハイライト (C/F)

- ✓昨年度に続き、営業CFの範囲内で新規投資を実行
- ✓営業資産増加により、ネット有利子負債は若干の増加



1 - 5. 2016年3月期2Qハイライト（見通し）

✓ 通期進捗率ビハインドも、見通しは据え置き

(単位:億円)	16/3月期 2Q実績	16/3月期 見通し	通期進捗率
売上高	5,403	12,000	45.0%
売上総利益	446	950	46.9%
営業利益 為替差損益込み*1	94	240	39.2%
営業外収支 為替差損益除く*2	△ 2	-	-
経常利益	92	230	40.1%
特別損益	△ 15	-	-
税前利益	77	-	-
当期利益	44	125	35.5%

営業利益

- ✓ 上期好調な電子・デバイスおよび車両・航空セグメントは、下期も伸長する見通し
- ✓ 食料セグメントは、畜産事業の反転によりキャッチアップを図る
- ✓ 鉄鋼・素材・プラントセグメントは、引き続き主力の油井管事業が苦戦

営業外収支

- ✓ 利息収支の良化、持分法投資損益の増加により、営業外収支は良化する見通し

経常利益

- ✓ 営業利益は下押し圧力があるが、営業外収支の良化により、経常利益通期見通し達成は視野に入る

特別損益

- ✓ 特別損失△15億円は見通しの範囲内。下期あらたな特損要因は想定せず

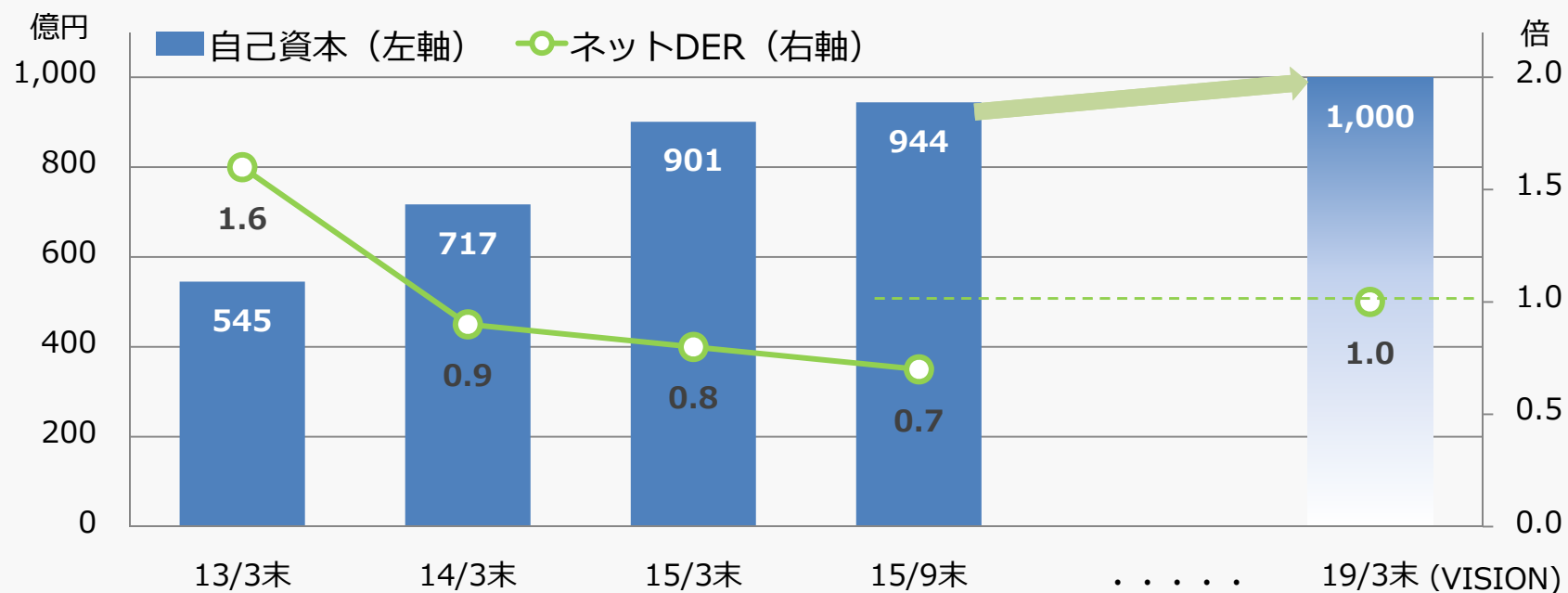
*1) 2Q実績：営業利益85 + 為替差益9 = 94 *2) 2Q実績：営業外収支7 - 為替差益9 = △2

2 - 1. VISION-130進捗状況 (B/S)

VISION-130目標

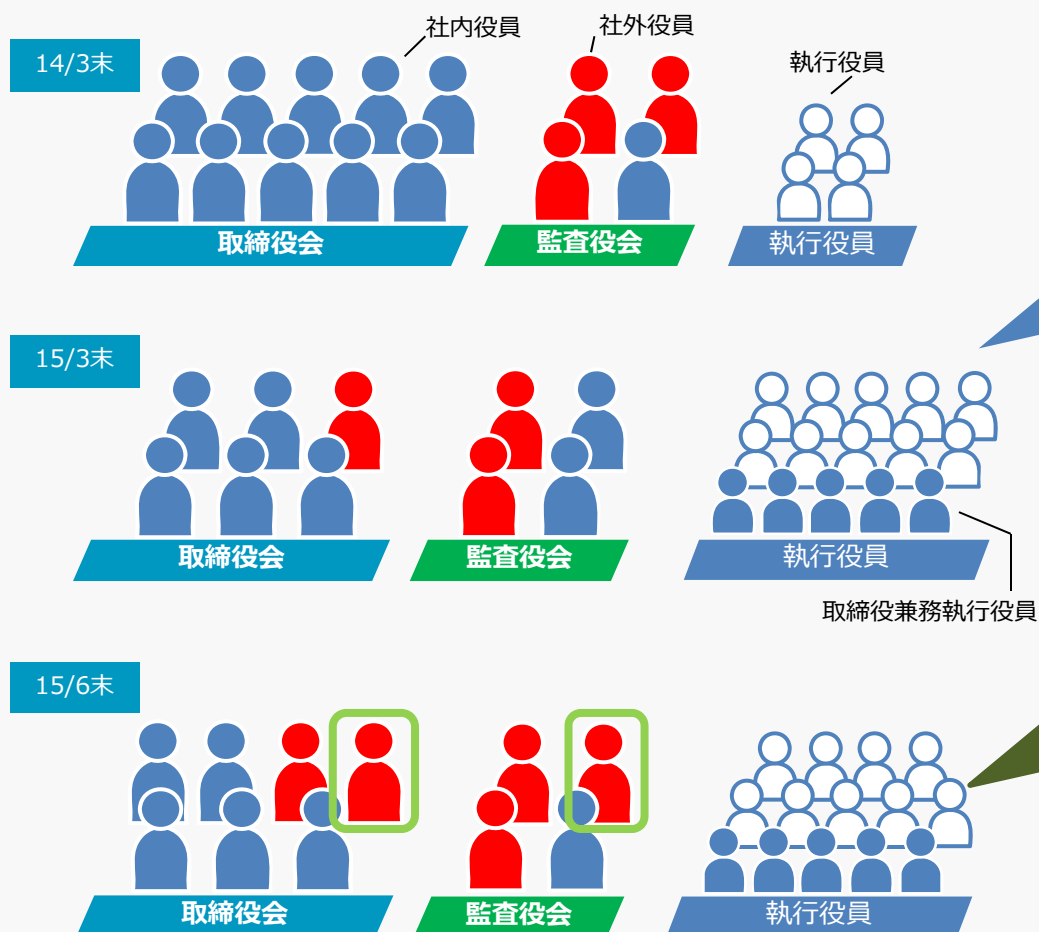
	2015年3月末 (1年目実績)	2015年9月末 (実績)	2019年3月末 (目標)
連結自己資本	901億円	944億円	1,000億円
ネットDER	0.8倍	0.7倍	1.0倍
ROE	14.2%	13.2%	15.0%

※2015年9月末のROEは、当期利益見通し125億円で算出



2-2. VISION-130進捗状況（ガバナンス強化）

✓ 2015年6月の定時株主総会にて、社外取締役を2名に増員



2014年6月

執行役員制度を拡充し、取締役員数を削減するとともに、社外取締役1名を招聘し、意思決定の迅速化とガバナンス強化を実施。

2015年6月

社外取締役を1名⇒2名に増員。コーポレートガバナンスコードへの対応を進める。

【新任取締役】

片山 誠一（神戸大学名誉教授）

2 - 3. VISION-130進捗状況（主要分野の取り組み）

✓強みを有する得意分野に注力し、事業の横展開・深掘りを推進

得意4部門

電子・デバイス

食料

鉄鋼・素材・プラント

車両・航空

主要重点6分野+新機軸

ICTソリューション

モバイル

アジアの食市場

北米シェール市場

グローバル・モータリゼーション

日系メーカー等の海外進出

新機軸

技術支援

車載関連・EMS分野における
技術支援、カメラ事業

TPP対応

TPP成立を見据えた食料分野
での機能強化と業界再編対応

2 - 3. VISION-130進捗状況

航空・宇宙ビジネス

✓セスナ社／公官庁向けの国内販売代理店権を獲得

- ✓ これまで防衛省に飛行点検機・救難捜索機、警察庁にヘリコプター等を納入してきた実績を評価され、セスナ社のベストセラー・ジェット機であるサイテーションシリーズの公官庁向け販売代理店権を獲得
- ✓ 本年10月、同シリーズ飛行検査機3機を国土交通省に引き渡し実施
- ✓ 老朽化した機体の入れ替え需要を見込む



サイテーションシリーズ Sovereign+

その他の航空・宇宙ビジネスの取り組み

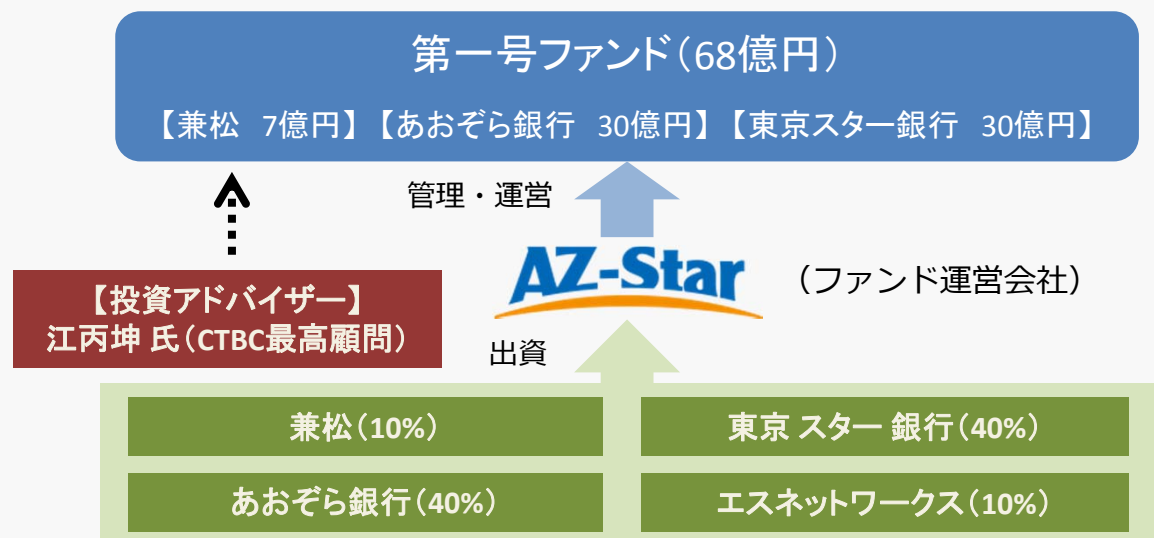
- ボンバルディア社の新型ジェット機Cシリーズの代理店権を取得し、ジェット旅客機事業に進出
- 欧州を拠点に展開する航空機循環部品取引で、従来のボーイング737部品に加え、エアバスA320部品の取り扱いを開始

2 - 3. VISION-130進捗状況

日系メーカー等の海外進出

✓ アジア進出支援ファンドの設立と、第一号案件の実行

- ✓ 日本企業の優れた技術・サービスをアジア進出によって活性化し、アジアの成長を日本国内に取り込むことを目的に、AZ-Starを設立
- ✓ 2015年2月に当社および、あおぞら銀行、エスネットワークスの3社で設立。8月には、台湾CTBC Financial Holdingの賛同を得て、同社子会社の東京スター銀行も参画。第一号ファンドの総額は68億円となった。



第一号案件の実行

- 2015年6月、日本全国の加盟店27,000社にオートローンや車両部位の保証を提供する、プレミアムファイナンシャルサービス(株)の全株式を取得
- 同社はアジア展開を進めており、新ファンドのアジア展開サポート力が評価され投資に結びついた

2 - 3. VISION-130進捗状況

TPP対応

✓ファームノート社へ出資し、スマートアグリ分野に進出

- ✓ クラウド牛群管理システム「Farmnote」を提供するITベンチャー企業(株)ファームノートに出資
- ✓ TPPの大筋合意を受け、日本の酪農・畜産の競争力向上が課題となるなか、牧場経営の見える化を推進し、酪農・畜産農家の生産性向上に貢献する
- ✓ 今後、当社グループの販売網を活用してFarmnoteを全国展開する



クラウド牛群管理システム「Farmnote」

- 従来、牛群管理は台帳やPCで行うのが一般的であり、手間や時間がかかっていた
- 「Farmnote」であれば、スマートフォンやタブレットでその場で簡単に登録でき、リアルタイムでスタッフ間の共有が可能となる



2 - 3. VISION-130進捗状況

モバイル

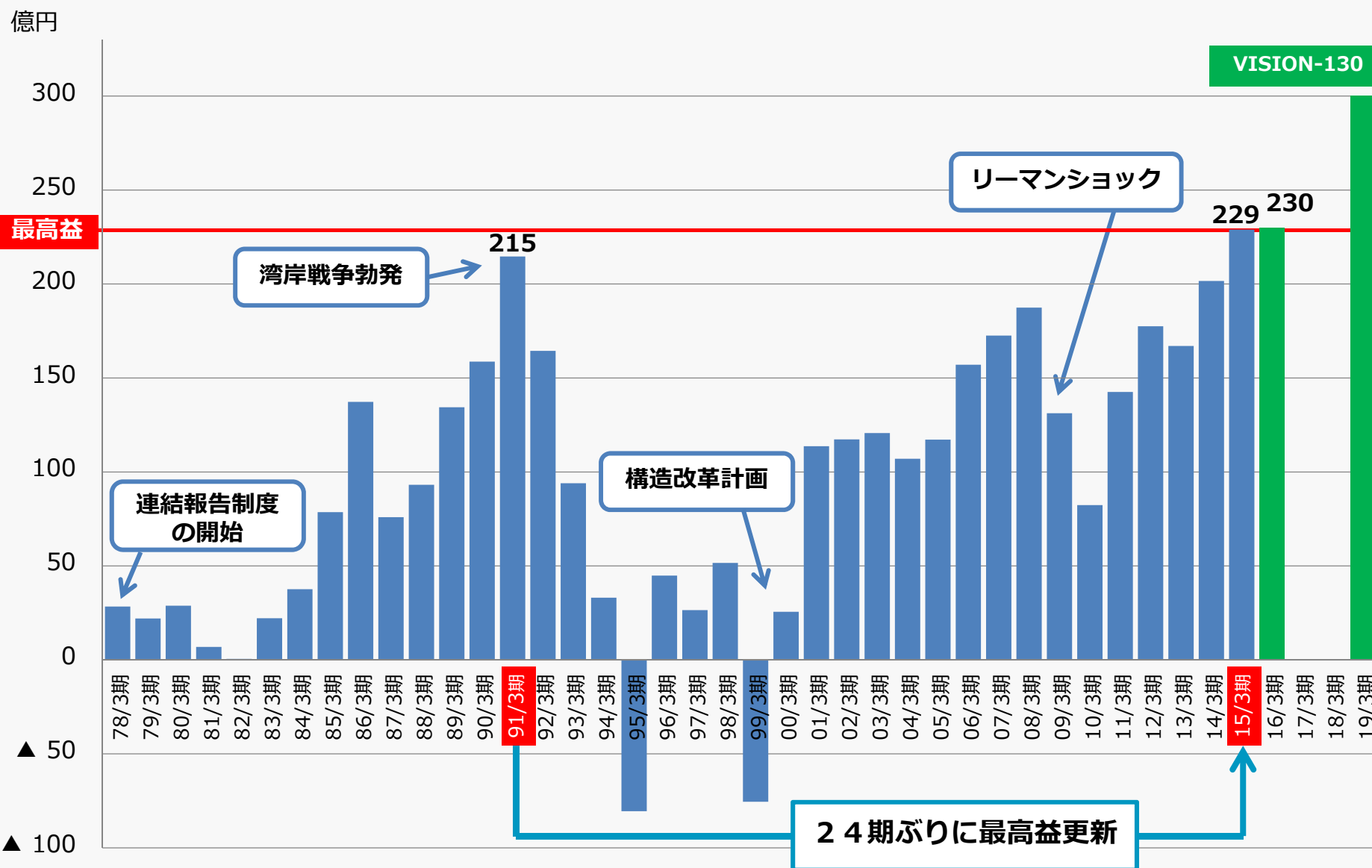
✓ 携帯電話販売代理店アルファグループへの出資

KCS Kanematsu
Communications

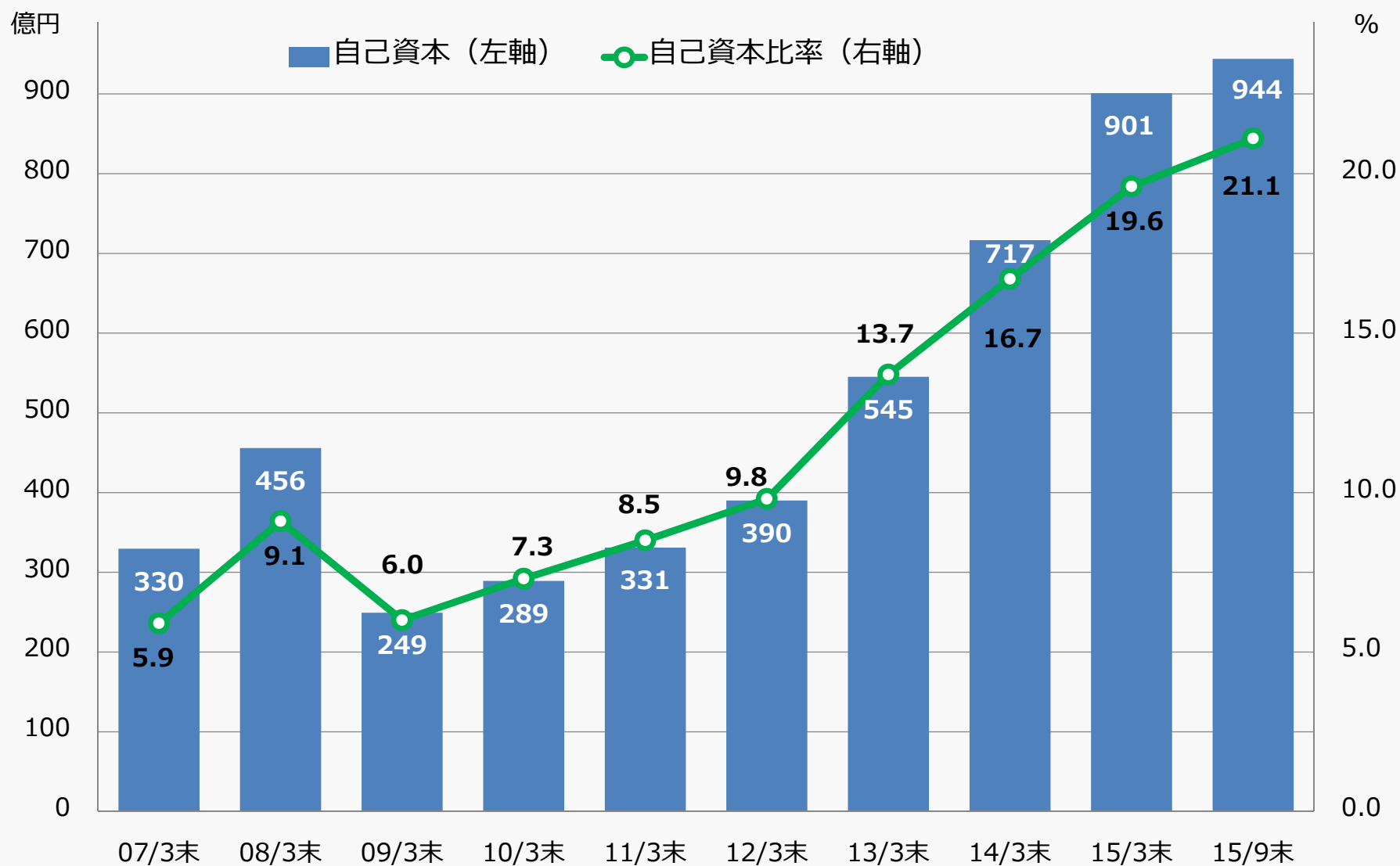
- ✓ モバイル事業を行う兼松コミュニケーションズは、アルファグループ（JASDAQ上場企業）に出資。同社株式の14.49%を保有する第二位株主となった
- ✓ アルファグループは首都圏を中心に約80店舗の店舗を持つ有力代理店であり、本出資により同社との関係を強化し、収益の確保・増加を図る
- ✓ また、移動体事業に関するアフィリエイトビジネス、アクセサリービジネスでの協業も進め、付加価値の創出を図る

Appendix

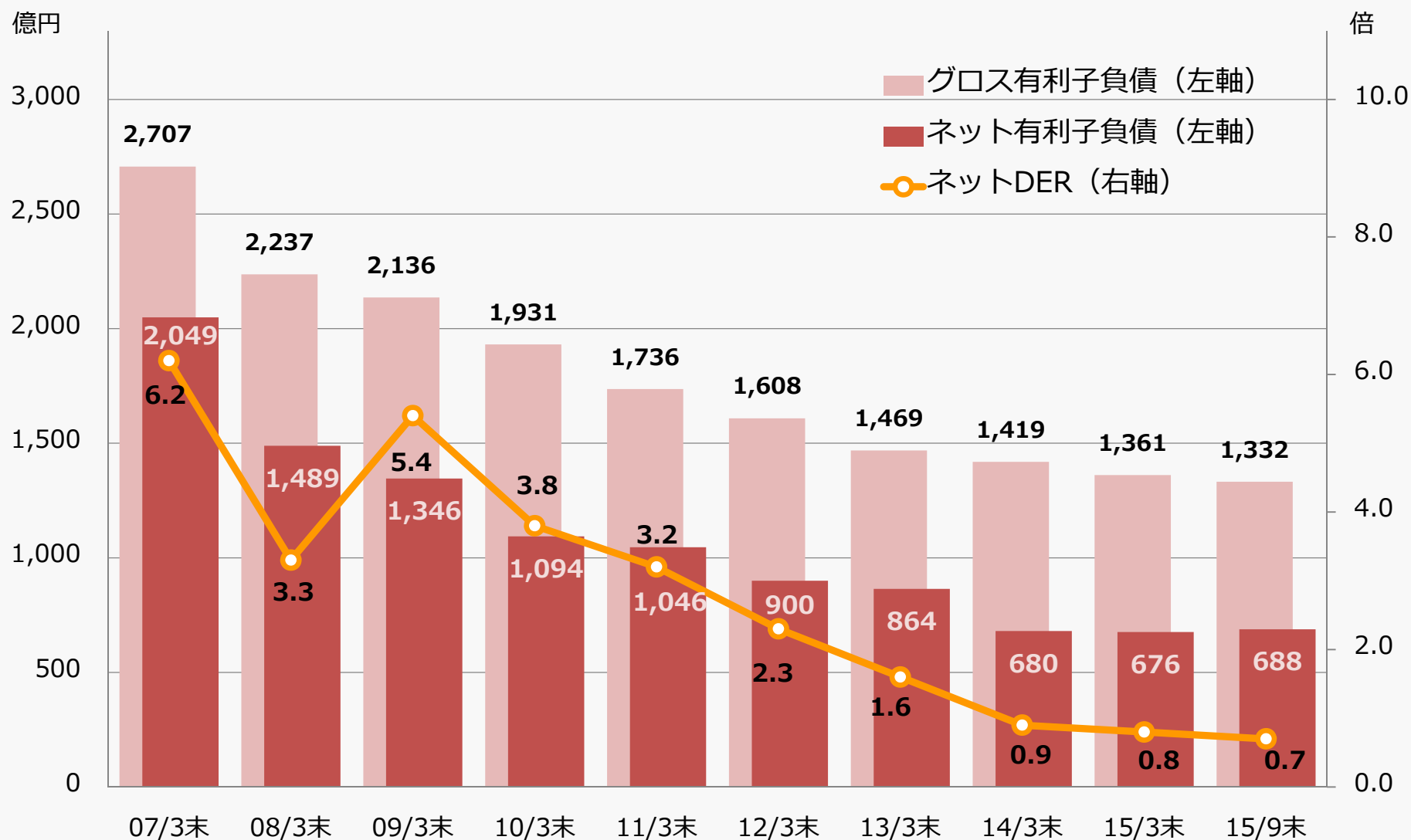
Appendix 1 – 1. 連結経常利益の推移（78/3月期～）



Appendix 1 – 2. 自己資本と自己資本比率の推移

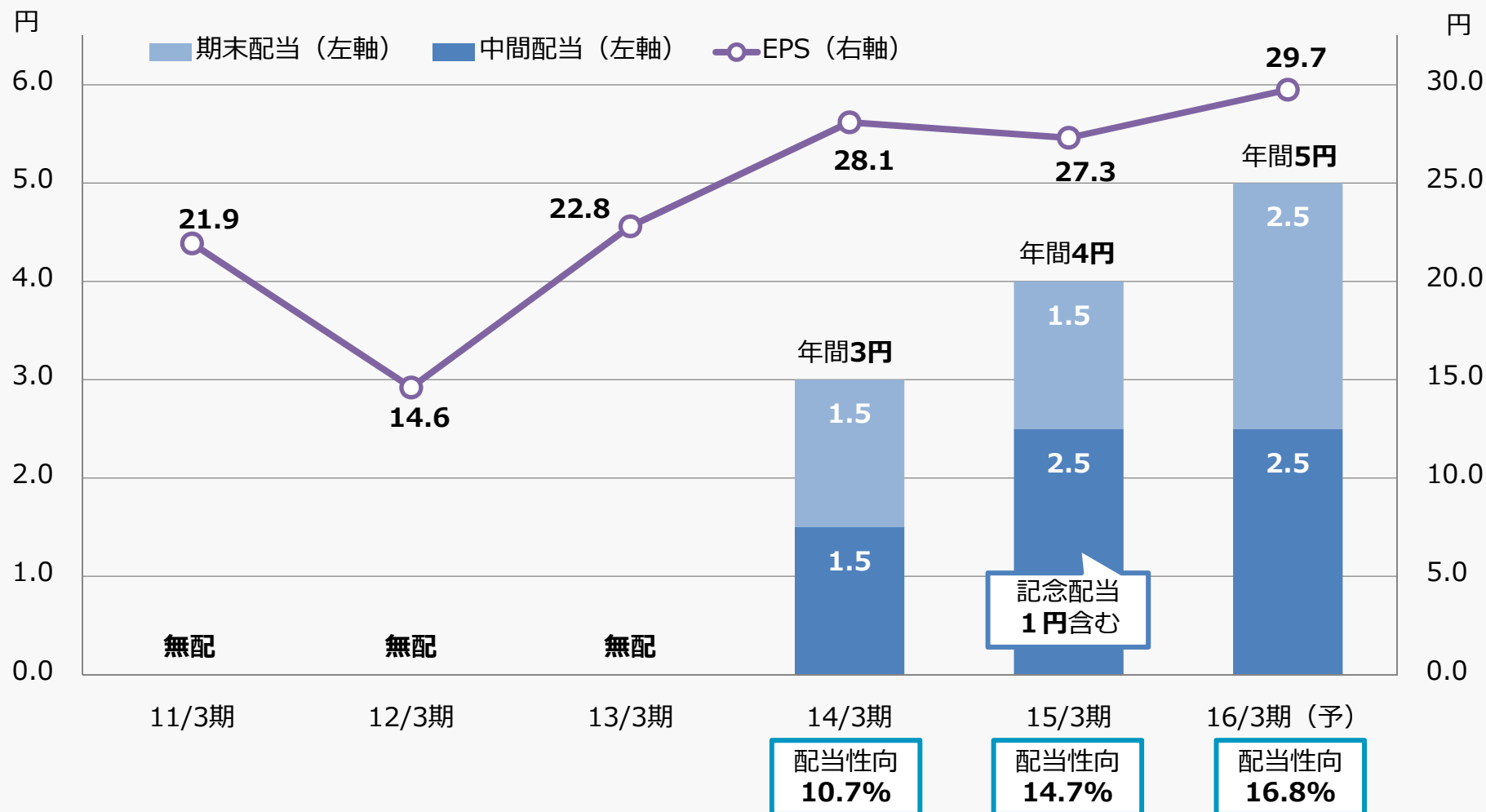


Appendix 1 – 3. 有利子負債とネットDERの推移



Appendix 2. 配当の状況

✓ 16年3月期の配当金は、1円増配の年間5円を予定



Appendix 3. 兼松グループの事業概要

セグメント	主要な事業	主要取扱商品	主要グループ会社
電子・デバイス	半導体部品・製造装置	半導体・液晶パネルおよび製造装置、電子モジュール・部材	兼松エレクトロニクス
	電子機器・電子材料	プリンタおよび関連機器、リチウムイオン電池制御用モジュール	兼松コミュニケーションズ
	ICT・モバイルソリューション	情報・通信関連機器およびサービス、携帯通信端末、モバイルインターネットシステム・サービス	日本オフィス・システム 兼松日産農林
	セキュリティ機器	防犯カメラ、レコーダー等各種セキュリティ機器	兼松アドバンスド・マテリアルズ
食料	食品	缶詰・冷凍・ドライフルーツ、コーヒー、ココア、砂糖、ゴマ、落花生、雑豆、ワイン、加工食品、調理食品	Kanemory Food Service 兼松新東亜食品
	畜水産	畜産物、水産物	兼松アグリテック
	穀物・飼肥料・ペット用製品	小麦、大麦、米、コーン、大豆、小麦加工食品、飼料、牧草、肥料、ペットフード、ペット用品	兼松ソイテック ノースペット
鉄鋼・素材・プラント	鉄鋼貿易	各種処理鋼板、シームレスパイプ	
	特殊鋼貿易	ステンレス、特殊鋼線材・条鋼	Steel Service Oilfield Tubular Benoit Premium Threading
	国内鉄鋼・鉄鋼原料	鉄鋼製品全般、鉄鉱石、コークス	兼松トレーディング
	原油・石油製品・ガス	原油、石油製品、LPG、排出権ビジネス	兼松ペトロ
	機能性化学品、ライフサイエンス	リチウム電池原料、太陽電池関連部材、医薬品・医薬中間体、機能性食品素材、栄養補助食品	兼松ケミカル 兼松ウェルネス
	プラント・船舶	各種プラント、ODA案件、光ファイバー、電力・通信プロジェクト、船舶、船舶用機材	兼松ケージーケイ
	工作機械・産業機械	工作機械、産業機械	
車両・航空	車両・車載部品	二輪車、四輪車、車載部品、鋳鍛造部品、建設機械	兼松エアロスペース 新東亜交易
	航空宇宙	航空機・ヘリコプターおよび部品、衛星・宇宙関連製品	KG Aircraft Rotables

Appendix 4. 主要連結子会社および従業員の状況

主要連結子会社の売上高

(単位:億円)	事業内容	持分比率	15/3期2Q	16/3期2Q	増減額
兼松エレクトロニクス	ICTソリューション	58.28%	293	306	+ 13
兼松コミュニケーションズ	モバイル	100%	609	636	+ 27
兼松日産農林	セキュリティ機器等	52.88%	50	57	+ 7
兼松新東亜食品	食品・畜水産	100%	137	141	+ 4
兼松アグリテック	飼料酪農	100%	59	66	+ 7
兼松トレーディング	国内鉄鋼・鉄鋼原料	100%	208	180	▲ 28
兼松ケージケー	工作機械・産業機械	97.90%	196	235	+ 39
兼松ペトロ	石油製品・ガス	100%	807	606	▲ 201
兼松ケミカル	機能性化学品	100%	88	89	+ 1
新東亜交易	商社	100%	495	535	+ 40
Kanematsu USA Inc.	海外現地法人	100%	481	581	+ 100

従業員の状況

(単位:名)	14/9月末	15/9月末	増減額
単 体	827	836	+ 9
連結子会社	5,016	5,223	+ 207
合 計	5,843	6,059	+ 216

※従業員は就業人員数（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む）

Appendix 5. グループ会社の状況

グループ会社の黒字・赤字会社数

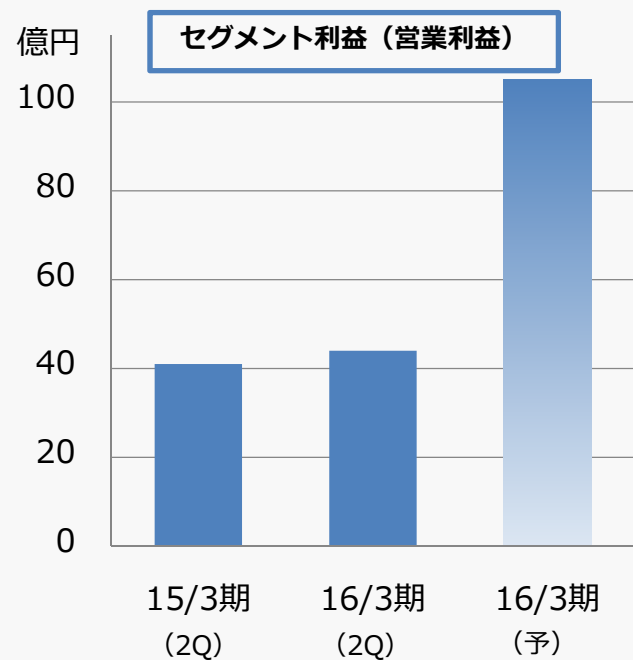
(単位：社)	2015/3月期 2Q					2016/3月期 2Q					前期対比
	連結子会社		持分法適用		合計	連結子会社		持分法適用		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字会社	28	27	9	10	74	33	28	10	8	79	+ 5
(黒字比率)	78%	59%	82%	77%	70%	85%	56%	83%	57%	69%	
赤字会社	8	19	2	3	32	6	22	2	6	36	+ 4
合計	36	46	11	13	106	39	50	12	14	115	+ 9

グループ会社の黒字・赤字額

(単位：億円)	2015/3月期 2Q					2016/3月期 2Q					前期対比
	連結子会社		持分法適用		合計	連結子会社		持分法適用		合計	
	国内	海外	国内	海外		国内	海外	国内	海外		
黒字額	28	8	3	1	40	38	9	3	1	51	+ 12
赤字額	▲ 0	▲ 3	▲ 0	▲ 0	▲ 4	▲ 0	▲ 8	▲ 0	▲ 0	▲ 8	▲ 5
合計	28	5	2	1	36	37	2	3	1	43	+ 7

Appendix 6 – 1. セグメント情報（電子・デバイス）

(単位:億円)	15/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (見通し)	前期対比	
				金額	増減率
売上高	1,267	1,347	3,000	+ 81	+ 6.4%
売上総利益	208	222	460	+ 13	+ 6.4%
営業利益	41	44	105	+ 3	+ 8.2%



16/3期2Q実績

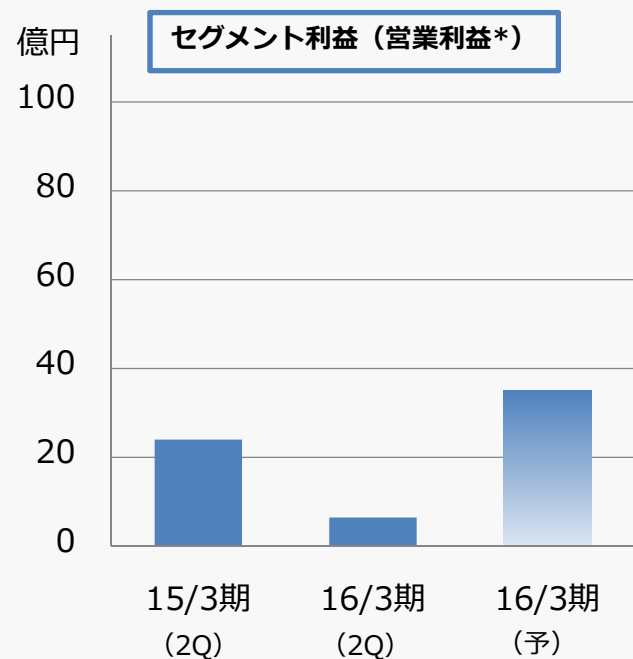
電子機器・電子材料および半導体部品事業は、イメージング機器、アミューズメント製品、スマートフォン部品が好調。ICTソリューションは製造業向け取引が順調に推移したほか、モバイル事業も好調。

16/3期見通し

ICTソリューション、モバイル事業は引き続き好調に推移。円安等によりやや出遅れたセキュリティ事業も下期は順調に推移する見通し。

Appendix 6 – 2. セグメント情報（食料）

(単位:億円)	15/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (見通し)	前期対比	
				金額	増減率
売上高	1,515	1,636	3,400	+ 121	+ 8.0%
売上総利益*	74	60	135	△ 14	△ 18.4%
営業利益*	24	6	35	△ 17	△ 70.8%



16/3期2Q実績

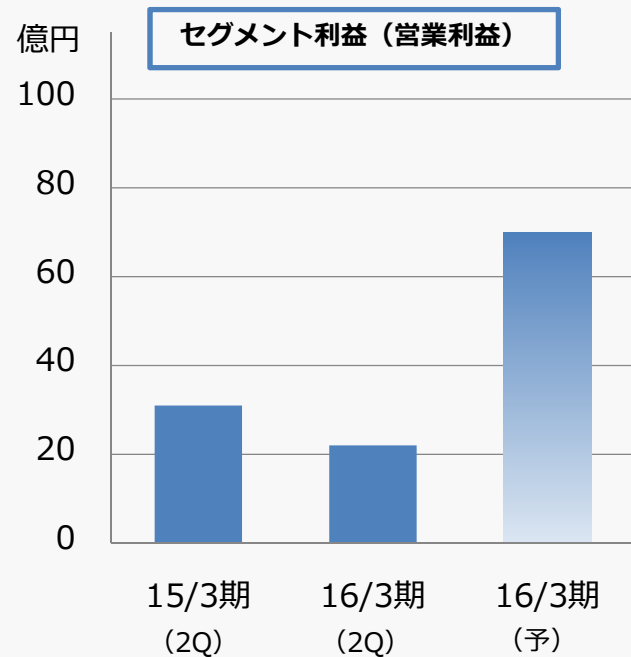
2Q営業利益は△4億円だが、円安進行により収益の一部が為替差益として10億円顕現したため、実質的な営業利益は6億円。食糧事業は、販売は堅調なるも飼料取引が相場で苦戦。畜産事業は、牛肉等の相場下落もあり前期比低調に推移。

16/3期見通し

上期苦戦した畜産事業については、相場の下げ止まり感もありある程度持ち直しが期待されるが、全体としては低調に推移する見通し。

Appendix 6 – 3. セグメント情報（鉄鋼・素材・プラント）

(単位:億円)	15/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (見通し)	前期対比	
				金額	増減率
売上高	2,242	1,989	4,800	△ 253	△ 11.3%
売上総利益	114	111	250	△ 4	△ 3.1%
営業利益	31	22	70	△ 9	△ 29.1%



16/3期2Q実績

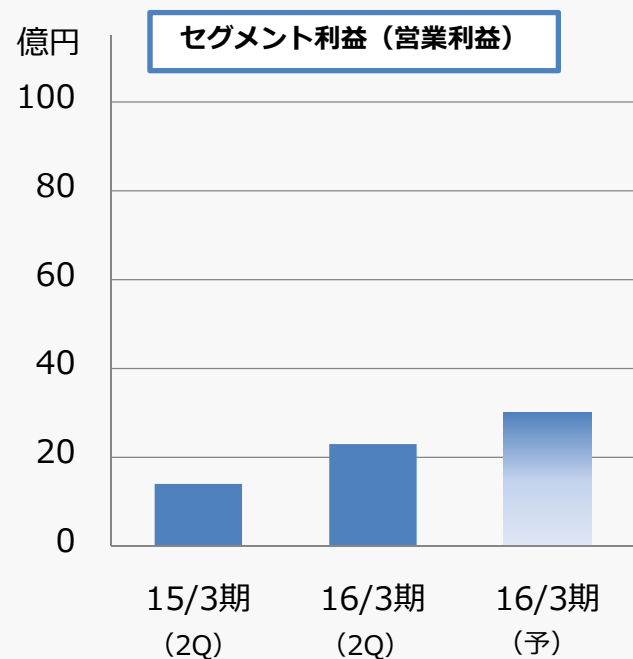
プラント事業は、工作機械・産業機械取引は堅調も、プラントインフラ取引において前期に大型の風力発電所建設案件があったため、減益。鉄鋼事業は、原油価格の低迷により油井管取引が低調。

16/3期見通し

主力の油井管事業については、原油価格の回復が遅れており引き続き低調に推移する見通し。鉄鋼事業での不採算取引からの撤退による回復や、小型のインフラ取引に期待。

Appendix 6 – 4. セグメント情報（車両・航空）

(単位:億円)	15/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (2Q実績)	16/3月期 (見通し)	前期対比	
				金額	増減率
売上高	310	370	650	+ 60	+ 19.5%
売上総利益	38	50	80	+ 12	+ 30.5%
営業利益	14	23	30	+ 9	+ 66.0%



16/3期2Q実績

航空・宇宙事業は、航空機部品取引が好調。
車両・車載部品事業は、四輪車用部品取引を中心に堅調に推移。

16/3期見通し

大口のデリバリーが上期に集中するため、下期はある程度スローダウンするが、車両・車載部品および航空機部品ともに堅調に推移する見通し。